

米欧回覧

第22号
編集・発行
米欧回覧の会
事務局

二〇〇一プロジェクト

「岩倉使節団」派遣百三十年に

ふさわしい記念行事を・

本年は「岩倉使節団」の派遣から百三十年目に当たる。それは、そのまま日本近代化の歴史であり、我が国にとって新しいステージへの転換を要する極めて重要な節目の年になる。

また、「米欧回覧実記」全五巻の英訳本も齊藤純生氏（UPS社長）をはじめ関係者の長年のご尽力により、いよいよ出版の運びになり、独逸語圏三ヶ国についてもペーター・パンツァー教授らのご労作によりドイツ語訳が出版予定と聞いている。その意味でも、まさに本年は、「岩倉使節団」と「米欧回覧実記」に関心をもつ者にとって、二十一世紀の最初の年にふさわしい記念すべき年となる。

そこで当会としては、二〇〇一プロジェクトとして各種行事を企画中である。その一つの柱は、内外の学

者、研究者を招聘しての岩倉使節団に関する「国際シンポジウム」の開催である。これについては既に基本案を作成して国際交流基金などに資金援助を申請中であり、その結果をまわって四月初旬には実行委員会を発足させ、シンポジウムの具体的な規模、内容、進行、日時、会場などの検討・準備に入る予定である。

また、もう一つの柱としては、会として設立以来満五年間の活動を集大成するプロジェクトがある。これは、当会の基本テーマである、「研究啓蒙、提言」の三つについて次のような展開を目指すものである。

一 研究活動については、「実記を読む会」や「歴史部会」単位で、会員自身の研究をまとめて出版する。ただ、これには問題の整理、絞り込

み、さらなる研究の深化や編集作業が要求される。

二 啓蒙活動については、懸案のビデオ映像の制作やスライド映像の修正を行う。これにはコンパクト版とオリジナル版があり、また英語版と日本語版がある。しかし、これらは大半が資金問題をクリアしなくてはならないので、制作面は「映像部会」や「インターネット部会」を中心に進められても、資金問題については外部資金や会員有志の協力を仰がなくてはならない。

三 提言活動については、「日本をどうする?」、「日本の世直し政策論」について「現未来部会」を中心に、これまでの実績を踏まえて「提言集」のようなものの出版が企画されている。その実現はわが「平成のサムライ」スピリッツと情熱いかににかかっている。

そこで、四月二十一日の例会は、このような議題を総括的に議論し、今後の会の方向も探り、「会員による、会員のための例会」になる予定である。

「岩倉使節団」派遣百三十年にふさわしい記念行事に向けて、お互いに、「何が出来るか、何をしたいか、何をすべきか」などについて忌憚なく意見を交換し、智恵を出し合う会になることが期待される。

長命英国と短命日本?

泉 三郎

英国と日本、この二つの国は大陸に近接した小さな島国にもかかわらず、一度は世界一に輝いた国である。では、その繁栄の頂点はいつだったのか、衰退の過程はどうだったのか、甚だ興味ある処である。

その興隆期の記念すべき年として英国の一九五一年と日本の一九七十年がある。これはそれぞれの国で最初の万国博覧会が行われた年であり、国力が充実して世界にそれを誇示しようる段階に達したことを物語っている。もう一つの数字は一八七五年と一九八五年である。一つは大英帝国がインドを傘下におさめた年であり、一つは日本が自動車や鉄鋼で米国を抜き債権国としても世界一になった年である。いずれも繁栄の頂点を極めた年といえるだろう。

その間、英国は二十五年、日本は十五年である。しかし、英国は一八五一年時点で既に世界のリーダーであり衰退の始まった一八七五年以降も第一次大戦の一九一四年まではその座にあった。つまり実に七十五年の長寿を保ったことになる。日本はどうか、頂点から僅か五年で脱落し、十五年後の今日ではすっかり二流、三流国に脱落したかにみえる。

いったいどこが違っていたのか。端的にいえば、「稼いだ金の使い方」だったのではない。英国は巧みに海外投資に使った。金融、保険、海運などのネットワークを巧みに創り上げた。国内の農業を復活し美しい田園と住宅を造った。そして子弟を厳しく育てた。少なくともエリートについては全寮制の学校で心身を鍛え育てた。日本はどうか、国を挙げて、バブル投機にいれこんだ。国民こぞって次世代に贅沢をさせ子供を甘やかすことに使った。その結果が今日の窮状を招いていないか。病根は深い。

既に遅きに失したとはいえない。しかし、今からでも遅くはない。虚心に英国から成熟国家の智恵を学ぶ必要があるのではないか。そんな思いがしきりである。

第二十回例会兼新年懇親会

「英国」テーマで盛況!



第二十回例会兼新年懇親会は一月二十五日(木)十八時三十分から、有楽町の外国人特派員記者クラブで開催された。参加者は八十名前後と予想されたが、実際には九十八名参加という新年会として空前の盛況となった。

会は「英国における日本年」に因み「英国」テーマで企画され、担当幹事の山田哲司氏による英語併用の司会で進行した。



恒例の実記朗読

感謝し、女房や亭主に感謝し、お互いに喜び合います。

まず恒例により「実記 英国編」の朗読がなされ、正木孝虎氏によって使節団がリパブリックに上陸しロンドンに到るくだりが紹介された。

次いで泉三郎氏から次のような挨拶があった。

『とにかく千年に一度という二十一世紀の最初の年を、こうしてみなさんと共に、健やかに、和やかに、衣食に不足もなく平和に迎えられるのですから、こんなに有り難いことはありません。天地神明に感謝し、女房や亭主に感謝し、お互いに喜び合います。』

たいと思います。そして、ウツだらけの、よこしまな、醜い、まるで「真善美」の反対ばかりのような世の中とオサバラして、気分も新たに元気を出して、今から始まる新世紀をなんとか「素敵な世紀」にしていくようにみんなで心懸けようではありませんか。』

続いて英国大使館の参事官ティム・モリス氏による日本語のスピーチ、そして元駐英大使の千葉一夫氏によるスピーチがあった。

また、懇親会の趣向としては、ダブリンのギネスビアに始まり、岩倉大使が愛飲したというオールドパーの水割り、ローストビーフ、フィッシュ&チップス、各種サンドイッチなどが供され、さらには多田幸子さんの紹介による渡辺万理・恭孝夫妻のエレガントなハープとバイオリンの演奏があり、特にこの夜のために英国の曲がアレンジされて参会者を楽しませた。

なおアイリッシュのコヒータイムには、マンチェスター大学に留学した松本洋氏(国際文化会館専務理事)から思い出話や元気のいい寮歌



多田さん(左下)の紹介で渡辺夫妻が演奏

の披露まであり、さらには大久保利泰氏から使節団のスコットランド訪問時に、大久保利通が若き女性に誘われて一世一代のダンスをした秘話が紹介されて会場は大いに盛り上がった。



松本氏

大久保氏

インターネット部会の現況

s-nkym@kt.rim.or.jp

連絡 中山 進

Tel:03-3702-3864

Fax:03-3705-8567

開設したホームページに様々な都合が生じ、サービスの提供会社を変更しました。そのため、しばらくの間「サロン」へのアクセス

歴史部会の現況

連絡 半沢健市

Tel/Fax:03-3717-5576

kenhanza@ba2.so-net.ne.jp

本年最初の歴史部会が一月十九日(金)国際文化会館で行われました。配布された資料から、発表者の石川氏のコメントを紹介します。

『日本の近代史における政治家の代表として伊藤博文を挙げた理由は、明治国家を作った多くの逸材の中で最も中心にいた人物である。それを可能にしたのは人柄、努力と才能があったからであるが、最大の鍵は明治天皇との信頼関係であったと思う。』

国際交流部会の現況

連絡 浅沼晴男

Tel:090-8596-1589

Fax:042-745-1394



国際交流部会では、昨年の独自逸旅行をはじめ、新年の懇親例会など、楽しく有意義な企画を担当してまいりました。この春には別記の通り、「岩倉使節団」にゆかりの深い青木周蔵別邸を那須が原に訪ねる旅を計画しました。

また、昨年の独逸ツアーの経験を生かし、この秋には「岩倉使節の足跡を追って英国を訪ねる旅」の企画が藤原宣夫氏を中心に着々と進められております。その中にはロンドンでの日英交流セミナーやスコットランド回覧も含まれており、大変魅力ある旅になりそうです。実施は九月上旬の予定です。参加希望の方は今からそのつもりでいてください。

■英国大使館参事官

ティム・モリス氏



日英関係は古く、一六〇〇年のウィリアム・アダムス(三浦按針)にまで遡ります。

でも、実際の交流は幕末の開国以来であり、とくに明治維新のあとで貿易関係がますます伸張し、一九〇二年には日英同盟が結ばれました。来年はその百年目になります。そして最近ではとくに一般の市民間の交流が盛んになってきました。

そこで三つの例をあげたいと思います。一つは若者の交流が盛んになってきたことです。毎年六十万人の日本人が英国を訪れています。その中で若者の比率が多くなってきました。それから英国の若者も日本にたくさん来ています。とりわけ意義が深いのは、日本各地の学校で英語を教えるプログラムのあり、来日した英国の若者が、帰国してから日本の知識を広めていることです。二つは日本からの投資がたいへん増えていることで、英国にとってそれは大変ありがたいことです。今日もブレア

首相と日本の有名会社社長とが大きな投資を発表しました。日本の対EU投資のうち英国が四十五%まで占めています。むろん英国からの投資も日本にきています。

三つは文化の交流です。英国人は日本のことに変り興味をもってきます。日本のいろいろのことを知りたがっています。二〇〇一年の「英国における日本年」のいろいろの催事はその点からも大いに期待されています。

これからの日英の関係の基盤はモダンパートナーシップだと思っています。

「米欧回覧の会」は国際的なメッセージをもっている会であり、その意味でも日英関係においてはむろん広く世界との関係で大成功をおさめると期待しています。

■元駐英大使

千葉一夫氏



本日、初めてこの会にうかがいました。が、既に変りいい会だという印象をもっています。今日は三つのことに絞ってお話をします。

第一に、日英関係はいまだ変に良好です。それは自然に

そうなっているのではなく、お互いに努力しているからです。英国側も大変配慮をしてくださっており、日本側も努力しています。それをお互いに続けていかななくてはいいいと思いません。

二つは日本はいま逼塞していますが、この試練を突き抜けていかないとはいけません。今日もいやなニュースを聞いたね」と家内と話し合っています。ここは空元気で出しても通じ抜けていかななくてはいいいと思いません。

三つはジャパン二〇〇一年についてです。一九八一年から十年ごとに大きなプロジェクトをやってきましたが、こうした催事を通じて日英双方が相互にアプロシエイトすること、相手をレスベクトすることが大事だと思います。



九十八名の方が参加

関西支部

連絡 山崎岳麿

TEL/FAX 06-6853-3137

関西支部 例会報告

今年初めての例会を、いつもと同じ大阪工業倶楽部会議室で二月十六日(金)開催。出席者は十二名。

最初に、十二月十六日に東京で開かれた「マラソン上映会」参加の加納さんの報告。大阪か京都で上映会を是非やりたい等の話が出た。

●毛紡績の話(佐伯さん・元倉紡常務)

「米欧回覧実記」のSir Titus Saltの羊毛工場の部分を読む。イギリスは羊の牧畜に保護奨励策を取っている事もあり、綿紡績と違って、毛紡績のほうはまだブランドを誇り、このブランドフォード辺りも紡績工場が残っていると。●使節団の米国での条約改正交渉について(西岡さん)

出発前の外務省の条約改正問題への取り組み、米国での十一回の協議、アメリカはどんな案を出してきたか、何故交渉が不成功に終わったか、完全に改正に至るには明治四十四年までかかった事など、詳しくお話になった。資料として大久保利謙先生の「岩倉使節の研究」等の抜粋

コピーを配布。

霊山歴史館の「維新の道」で佐々木教授の講演要旨に、交渉打ち切りはアメリカ側が、大久保、伊藤の帰りを待ちきれず、交渉失敗とあるのは、筆者の誤りか。尤もこの当時は使節団の一般の評判は、大金を使って何をしに行ったやらと、あまり良くなく、三宅雪嶺などけなす人が多かった事は事実。

●「米欧回覧実記」を読む
①「エデンボルグ(エデンバラ)の記」、
「ハイランドの秋景」および「キャッツル(Katrine)湖」

山崎がこの文章に引かれて、レンタ・カーで旅した八年前の話、行きそなった「キリカムケル」の事、恥をかいたドンケルのホテル、Katrine湖の波止場が昔のままの、丸太の手すりであった事などの思い出を話す。

②「ニュー・キャッツル・アームストロング工場」
一行を市長らが緋衣盛服して迎えたところ、緋衣はこんなものと、市役所で市長に着せられて中村さん自身も、緋衣をつけた写真を披露。アームストロング発明の鍛鉄を螺旋巻して作る大砲は、実は日本で徳川家康が作ったたとの意外な話も紹介された。

「岩倉使節の世界一周旅行」

マラソン上映会、百六十名が完走!

毎年、暮れの恒例行事になった感のあるスライド上映会「岩倉使節の世界一周旅行」は、十二月十六日(土)、日本プレスセンター十階のホールで開催され、百六十名を越える人々が参加し、朝十時半から夕方五時までの長丁場を完走した。

今回は会員以外の多彩な参加者がみられ、特に女子大生

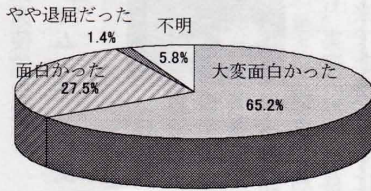
の姿が目立った。いつもの通り会場からのコメントもあり、大変充実した楽しい一日となった。

なお上映会の後、二次会が隣接する富国生命ビル二十八階の聘珍楼で行われ、こちらにも二十四名が参加、意外な出会いもあり酒食の間に大いに交歓を深めた。

六十九名がアンケートに回答

上映会終了後、多くの参加者が残り、配布したアンケートに熱心に記入している姿が見られた。アンケートの回

図表-1 映像を観た印象



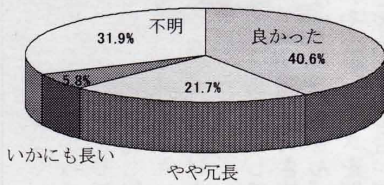
答者は六十九名に達した。その内訳は、一般の方四十七名、学生等十一名、会員十一名である。

今回の上映会の大きな特徴は、会員以外の一般の方や学生等の若い年代の参加者が多かったことであり、アンケートはその特徴を反映している。参加者が、映像や上映方法についてどのような感じたのかを報告する。

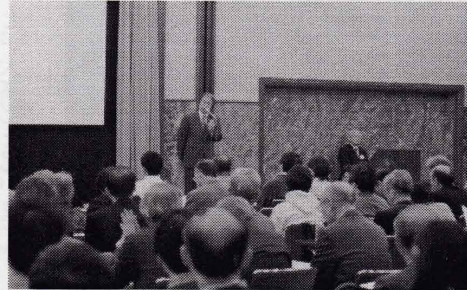
全体的な印象は大好評

映像を見た感想は、九十三%が面白かったと答え、退屈

図表-2 映像の「長さ」について



だったとする人は殆どいなかった。更に、五時間におよぶ上映会であったが、その長さについても良かったとする人が四十一%であり、長いと感じた人を大きく上回った。このように、映像の全体的な感想は極めて好評であった。



満席の参加者を前に挨拶する泉三郎氏

会場におけるコメント



清泉女子大学 相馬亜紀さん

大学で日本近代史を専攻しております。この会のことをお聞きした時からずっと楽しみに待っております。本当に素晴らしい沢山のスライド、そして非常に分かりやすいナレーションで、時空軸を縦に横にと私も一緒に旅行した気分になりました。

世界でも稀に見るスピードの近代化の中で、岩倉使節団が果たした意義の大きさ、役割の大きさを、今日スライドを通して再確認致しました。

正に、日本にとって近代化とはどのようなものであったのか、今こそ客観的に、根底的なところから振り返ってみる必要があるのではないかと改めて思いました。



元NHK プロデューサー 川合 周氏

昭和三十年にNHKに入り、アナウンサーとプロデューサーをやり、国際関係も随分担当してきました。一緒に来ている同期のプロデューサーと、「これは、なかなかスゴイネ」と感嘆していました。



衆議院議員 上田清司氏

情報というのは、現実にあつたもの、あるものをすべて記号化し、デジタル化して伝える。これに対して「回覧」というのは、人間がナマで見ているということです。人に会い、現物を見、生き様を見ていくということです。

「情報」では得られない、生きていく人間の情感や、力が直接触れるという最高の体験が根源にあつて、明治の人たちがそのあとの大事業を進められたのだと思います。

過日議員会館で十数名の議員団と一緒にほんの一部だけ見せていただいて、全部見る機会をなんとか得たいと思つていまして、今日実現できたことを嬉しく思っています。

何よりも革命を起こしたばかりの政府首脳主力の過半の人たちが、2年近くも海外に行つて、新しい国家モデルを調査、勉強に行ったことがすごいなと思いました。

多分世界の歴史の中でも革命政府の首脳陣が国外に出たというのは、日本だけでしょ。そういうことができるすごく勇気のある人たちであるということなどを知る優れた映像でした。

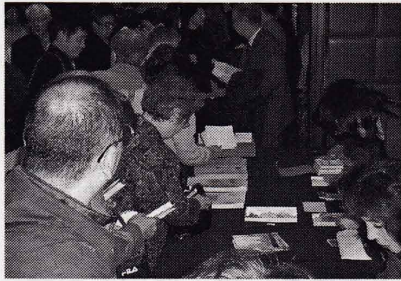
巻ごとに真摯に評価

全十巻をそれぞれ○△×でバツサリ評価してもらった結果は、出だしの「サンフランシスコまで」と「大陸横断の旅」そして「英国社会の光と影」に対して七十八%の参加者が○の評価であった。

しかし、「米欧回覧実記」が割くページ数も少なくなる終盤の状況を反映してか、後半、特に八巻以降は次第に△の評価が増えていき、後半の映像には何らかの改善の必要を示唆している評価となった。

多数がビデオ化を希望

上映方法については、「今回のように全十巻を一度に上映した方がよい」という人が六十四%（複数回答）であ



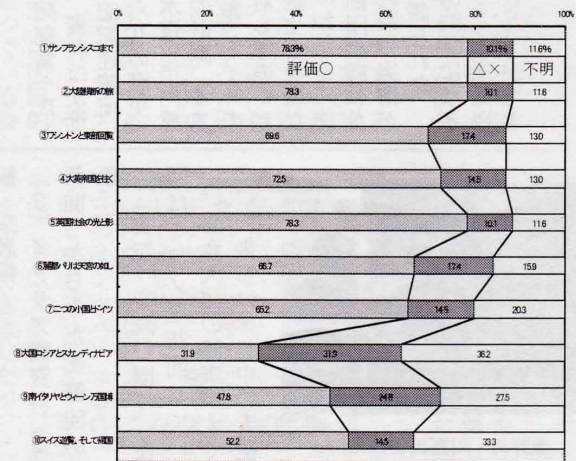
休憩時間に書籍等を購入する熱心な参加者

り、一挙上
映によって
旅の大きさ
や意味が分
かるという
人が多数を
占めた。た
だし、状況
に応じて三
四巻ずつ
上映などを
取り入れる
ことを可と
する意見も
多かった。
八十七%
の参加者が
「このまま
の映像を友
人・知人や
学生に見せ
たい」と回
答している
。そして、
「ビデオに
すべきた」
という人
が三十六%
（複数回答）
で、短くす
るよりもビ
デオ化の要
望が大きい
ことが明
らかになっ
た。

意見・希望も多数記入

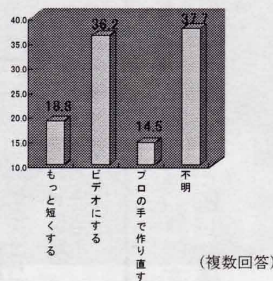
回答者の多くが、知りた
いこと、意見や希望を記
入。映像に刺激を受けた素
直な印象と今後の期待な
どが多く寄せられた。
この結果は年初の幹事
会でも報告され、参加者の

図表-3 各巻別の評価



図表-4

友人・知人・学生に見せるために



映像に対する真摯な態度が
滲み出たアンケートを、当会
の貴重な財産として活かし
ていくことを確認した。



映画監督 松本正志氏

東宝出身の松本です。
ナレーターが素晴らしいで
すね。最近のナレーターはど
うも感情移入しすぎると思っ
ていますが、このナレーショ
ンは、坦々としてしかも言語
明朗で、あれだけ味を出す、そ
ういう意味では大変見ている
人の心に染みるような、感銘
深いおしやべりであったと思
います。

一般の参加者の感想

(アンケートから)

- この使節団の心意気を活用して現在の閉塞感を打破するにはどうしたらよいでしょうか。
- 今の時代に「スライドと語り」のスピードが味わい深くてよかった。忙しい日常のストレスを解消する一服の清涼剤の役割を果たしています。
- 先入観として、ひたすら長くて難しい思っていたけど、一編が十分ほどで、親切設計だった。
- 今日一日でこんなに岩倉使節について勉強できるとは思っていませんでした。学校の勉強とは違い、とても身になります。
- 政治を自分のものとして、
- あえて気になった点をいえば、一つの絵をワンカットだけにしか使われていない。それが見ていて少しイライラしてきました。もう少し、一つ一つの絵をクローズアップなんかで使われた方が分かりやすいのではという気がしました。
- いずれにせよ全体として手作りの味というのが、ナレーションとあいまって、非常に感銘深いものになっています。
- 若い人々が、そして、中年の私達も、まずは知る事から始めたいと思いました。
- 年に一回しか上映されないのは、いかにも残念、もったいないと思います。
- 外国、特に中国、朝鮮の人に見て貰いたい。
- 西洋を学ぶことは日本を学ぶことだと感じました。それだけ、我々現在の日本人は根無し草になっているのだと思います。
- トイレはどうだったのだろうか。チップは？
- 使節一行は訪れた国の人々にはどう写ったのだろうか。

「実記を読む会」の報告

ヨーロッパを中心にテーマ回覧

「読む会」では毎月、中身の濃い報告が行われていますが、このニュースは季刊なのでその貴重なレポートを全部載せられないのが残念です。そこで苦肉の策として今号では十月から二月までの五か月分の概略をまとめて報告します。

なお、これらの貴重な資料は文庫に保管されていますから、興味のある方は是非「読む会」に出席下さい。

2000年10月5日

仏蘭西

最初の発表は松井千恵氏。ご自分でまとめられた小冊子「岩倉使節団の観たフランス、米欧回覧実記を通して」が配られ、それに基づき研究発表がなされた。思いがけないほど岩倉使節団一行がフランスを高く評価していることが記述をおって示された。文明の中枢、流行の源泉であることはも

とより、ゴブラン、セーブル、チョコレートなどの産業から、大書庫、建築、鉱山学校、はてはフランスの財政政策にいたるまで高く評価していることなど。

氏が実際に克明にたどられた使節団のルートを写真とともに説明される様子はいかに「実記」に魅せられておられるか、ここにも岩倉使節団にすっかりハマっている人がいるとほほえましかった。

発表者二人目は阿部賢一氏、「パリ都市計画」。資料は使節団の回覧場所、実記記述箇所、オスマンの経歴、パリの歴史、公共的設備、上下水道、市内環状鉄道、都市計画の財源、オスマンザシオンの功罪、トイレの話、ミラタリーに対してのシビル・エンジニアの誕生と発展などの十五ページにわたる阿部氏力作の論文。使節団の訪ねた頃のパリの都市計画の実情が大変わかりやすく語られた。土木関係の専門の話になるかとの危惧はなく、大変面白く、容易に理解することができた。

2000年11月9日

伊太利亜 白耳義

最初の発表者は「西欧文明の源流ローマ」と題して磯野成子氏。

資料は、
(1) 使節団のイタリアにおける行程。

(2) 使節団のローマ観光、彼らが訪れたローマの名勝旧跡および「回覧実記」に見られる久米邦武の文明観、歴史観、宗教観。

(3) イタリア側資料(現地新聞)からみた使節団の印象。

「実記」を読む限り、使節団はミラノを訪問していない。岩倉大使の健康がすぐれず、久米らは休養中の大使と



磯野氏・川島氏を囲んで

共にヴェネチアに留まったからである。しかし、伊藤、山口らは駐日イタリア公使アレクサンドロ・フェドステイアー伯爵に伴われてミラノ、トリノを訪ねていることが明らかにされた。

二人目の発表者は川島静子氏。「米欧回覧実記のベルギー編」をとりあげ、特に運輸と言語問題に的をあてて発表された。資料はベルギーの歴史、ベルギーの運輸・運河、ベルギーの言語問題、久米の言語に対する考察、フランス語とフランマン語の相克など。

2000年12月7日

音楽

発表者は岩崎洋三氏。「岩倉使節団と西洋音楽の出会い」。

資料は、
(1) 使節団はどこで何を聞いたか。ソルトレック、ボストン、等の音楽会のプログラム(例：一八七二年六月十八日のボストン国際音楽祭のプログラムにはヨハンストラウス自身がオーケストラを指揮

している)、会場の写真など。
(2) 使節団は西洋音楽をどう受けとめたか。
(3) 各国の国歌と制定の経緯など。

会場の写真、プログラムなどと共に、資料にちなんだ音楽がCDでかけられ、あたたかも使節団とともにあるような気持ちで聴くことができた。時間の都合で慌ただしかったので、乞う再演。

小田八郎氏を偲ぶ
(読む会にて)

昨年十一月三十日、主要メンバーの小田八郎氏が急逝された。

いつも小田氏の座っていらしたイスに遺影を掲げ、花を添え、全員で黙祷を捧げた後、一同小田氏を偲んで寄せ書きをして小田夫人に送った。いろいろの意味で小田さんには大変お世話になった。「八ちゃんありがとう」と心からお礼を申し上げる。



故小田八郎氏

(多田記)



発表する坂内氏

最初の発表は山田孚氏で、テーマは「岩倉使節団ロシア滞在記一八七三年三月二十九日〜四月十五日まで」。

資料は九ページに及ぶ本文と解説、山田氏のコメントがまとめられた小冊子。ペテルスブルグで使節団を接待した日本人、ヤマートフこと橋耕齋の紹介もあり大変興味ある内容だった。とりわけコメントがなかなかきいているとは泉氏評。

次にロシア及びロシア語に堪能な上、実記に興味をもたれペテルスブルクを研究されている坂内知子氏が実記に基づいて現在のサンクトペテル

2001年1月11日

露西亜

ブルクの地図、資料、写真を交えてお話くださった。あまりなじみのないところゆえ、質問がひきもきらず時間は大幅に遅れしかも終了後も話が続き坂内氏には大変申し訳なかつたが、出席者全員いたく満足の様子だった。

2001年2月8日

奥太利

発表は宮野有明氏と、小林義丈氏。テーマはウィーン万国博覧会。

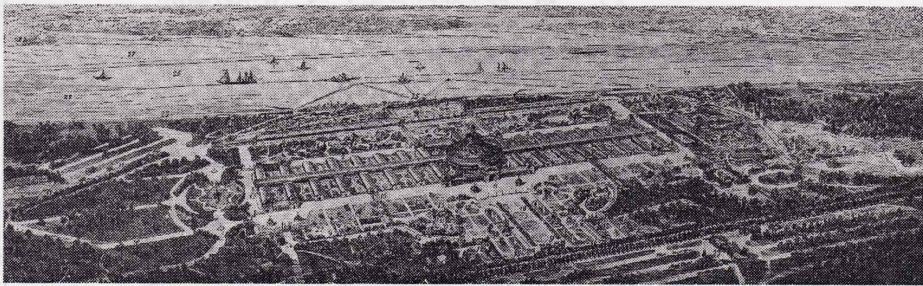
宮野氏資料は万国博覧会の歴史、開催地、入場者数、国内外の動向などのまとめ(博覧会全体)、ウィーン万博の主な出品リスト、実記の記述抜粋と音読。

出品品リストにそれぞれの国柄が伺えて面白かった。個人的な感想としては、こんな時代にチュニジアが出席していたのは驚きだった。

続いて小林氏。日本がウィーン万博に参加した背景、目的、期間、規模、来場者、かかった費用と収入、会場設定など。日本パビリオンの内容と展示品、その後の処置、出展までの過程、技術伝

習生、ビジネスマンとしての日本人など多くの興味深い資料が提供された。

お二人の発表によって百三十年前のウィーン万博の会場が大変身近なものとなり、展示会の様子が眼前に彷彿としてくるようだった。



ドナウ川とウィーン万国博覧会 (「図説万国博覧会史」より)

当会幹事による最近作

「快著」二冊紹介!

両書を一読されれば、読者はこんな素晴らしい幹事をもつ「米欧回覧の会」の会員であることの幸せを感じられるであろう。

★郡山史郎著

「ソニーが挑んだ復讐戦(リベンジ)」(フラネット出版・二〇〇一年三月・千七百円+税)

ソニーの経営者として活躍した著者のメモリアル(回想)である。

私はかねてから、企業物語は小説でもノンフィクションでも、「知っているのにウソを書いている」「か、知らないくせにウソを書いている」かの作品しかないと思っていた。そういう不逞な読者にとってこの書物は大きな衝撃だった。「知っているのにウソを書いてない」のである。

太平洋戦争の対米復讐をビジネスでやり遂げた日本の男たちの物語がここにある。高度成長の尖兵と戦後日本の再生とが輝かしく結婚した至福の三十年がここにある。そして、時代と企業に対する著者の幾ばくかのアンビバレントな心情もここにある。

私は一気に読み切って感動した。

★柳沢賢一郎著

「IT革命 根柢なき熱狂」(講談社「講談社プラスα新書」・二〇〇一年二月・八百四十円+税)

日本に再復讐したつもりでの米経済のアキレス腱を、徹底的に抉り出す物語である。IT革命の幻想とバブルの皮を剥ぎ取る物語である。

氏の「IT革命」批判に説得力があることに、私は三つほどの理由を考えている。

第一は、IT投資による米経済の生産性向上を、多くのIT経済称揚者が扱っている米国商務省報告そのものや、長期の経済データを駆使して説得的に論破していることである。

第二に、B2CやB2Bの高度成長信仰を、ビジネスとコミュニケーションの本質の根底的な分析で幻想とみていることである。

第三には、三菱商事と三菱総合研究所における三十年の実務経験というキャリアによってウラが取れている、と思わせるからである。

そして、いつのまにか著者は凡百のエコノミストの一人ではなくて、文明批評家の一人として立ちあらわれるのである。

(半澤健市)

「米欧回覧の会」ご案内

趣 旨 この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。
この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会 員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例 会 年に4回くらい全体例会をもちます。

分科会 テーマ別にグループ活動をします。映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなど。

機関紙 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹 事 会員の中から、代表1名、幹事十数名を選び、運営を担当します。

会 費 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・分科会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面「イズミ・オフィス」に置きます。

〒192-0063 八王子市元横山町1-14-16

E-mail: info@iwakura-mission.gr.jp

TEL:0426-46-3310

FAX:0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先(自宅或いは勤務先の住所・TEL・FAX)現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。なお年会費は郵便振込が便利です。
00180-2-580729 米欧回覧の会

「米欧回覧ニュース」のバックナンバーはホームページに掲載されています。また、インターネットサロン(会議室)にも気軽に参加してください。

<http://www.iwakura-mission.gr.jp>

<催し案内>

2001年3月～6月の予定です。

☆第21回例会

日 時: 4月21日(土) 13:00～17:00

場 所: 学術総合センター

テーマ: 「2001プロジェクトに向けて」
(詳しい内容は、改めて案内を送ります)

☆実記を読む会

日 時: 4月12日(木) 18:30～ 「オランダ」

5月10日(木) 18:30～ 「プロシア」

6月7日(木) 18:30～ 「イギリス」

会 場: クラウンインターチェンジプログラムス

☆歴史部会

日 時: 4月26日(水) 18:30～21:00

場 所: 国際文化会館

テーマ: 「山田耕作の光と影」

講 師: 丘山 万里子氏 (音楽評論家)

☆現未来部会

日 時: 3月21日(水) 18:30～21:00

場 所: 国際文化会館

テーマ: 「日本の政治の現状をどう打開するか」

☆国際交流部会

日 時: 5月20日(日)～21日(月)

那須が原歴史ツアー

「青木周蔵別邸他を訪ねる」

コーディネーター: 水沢周氏

※魅力的な「英国ツアー」を企画中、9月に実施予定、乞う、ご期待!

☆関西支部

日 時: 5月25日(金) 11:30～

場 所: 大阪大学工業会会議室

会 費: 2000円

ご照会は山崎まで (Tel・Fax:06-6853-3137)

編集後記

◇昨年のマラソン上映会そして新年の懇親会と当会事業の盛会が続き、意欲的な若い年代や新しい参加者の増大という心強い広がりもみられます。創立五周年の大きな事業を控えた当会のビッグイヤーは、追い風を受けながら加速度がついて進行中です。

◇ニュース編集そしてインターネット部会でお世話になった楠木さんが、ボランティアの仕事が決まり、四月から一年間タイに滞在することになりました。まとめ役が不在となる痛手は大きいのですが、常に未知の領域に挑む姿勢に対する感嘆と賛辞の気持ちたちが上回ります。一年後に元気な楠木さんに再会することを楽しみにしています。

◇インターネット部会と映像部会が合体し、更にこのニュース編集を加えて、米欧回覧の会の総合的なメディア機能を担う新しいグループが誕生します。

◇考えてみれば「米欧回覧実記」自体が、二十一世紀になっても会員を始め多くの人々を結びつけている、優れたメディアの一つといえます。